秋田の可能性

［秋田市観光クチコミ大使］
公益財団法人教育資金融資保証基金　仙台業務センター所長　近藤（こんどう）　弘（ひろし）氏

私は前の職場の日本政策金融公庫秋田支店勤務時、秋田商工会議所の会員の皆さまと役職員の方々には大変お世話になりました。この紙面をお借りして改めてお礼と感謝申しあげます。

日頃から秋田の話題を注視していますが、今年は何といってもスポーツ界の2つの話題が秋田のみならず全国を明るくしてくれました。

1つ目は、世界バトミントン選手権大会の女子ダブルスにおいて、北都銀行バトミントン部所属の永原・松本選手ペアが優勝、米本・田中選手ペアが第3位になったことです。以前から北都銀行はバトミントン部の強化に力を入れていると伺っておりましたが、本当に素晴らしい成績です。今後、東京オリンピックでの一層の活躍を期待したいと思います。

2つ目は、何といっても夏の甲子園での秋田県立金足農業高等学校の大活躍です。第100回記念大会での秋田県勢として103年ぶり、第1回大会の秋田中以来の準優勝という見事な成績に改めてお祝い申しあげます。

金足農の活躍ぶりについては、既にいろいろなところで取りあげられておりますが、私が特に気になったエピソードを1つだけ改めてご紹介させていただきます。それは今回の快挙の背景には、平成11年から、秋田県内の高校野球関係者による全県を挙げての強化策の取組があったということです。そうした取組の成果が3年前の成田投手を擁した秋田商業高校の活躍や、今回の金足農の成績としてあらわれました。強化策に基づく指導方針などを選手たちが前向きに受け止め、日ごろの練習を工夫し、特に吉田投手は投球フォームの見直しなどに取り組み、あの剛速球を身に付けていったということです。

こうした県を挙げての取組は、教育界においても、小中学生の全国学力テストでの成績が、全国トップクラスを維持し続けているということにも通じているのではないかと思います。いまや県の教育関係者の方が作り上げてきた授業メソッドは、全国学校関係者のモデルにもなっているとお聞きしています。

秋田を取り巻く環境は確かに厳しいものがありますが、今回の金足農の選手たちの活躍ぶりや、その背後にある様々な県を挙げての取組、そして教育界での成果などを見ますと、秋田の地域性などを踏まえた秋田らしい取組方を工夫していけば、秋田の可能性はまだまだいろいろな分野に拡がるのではと私なりに思うに至っています。

金足農の試合後の街頭インタビューで秋田市内の方がおっしゃっていた言葉が印象に残っています。「金足農の選手から勇気や感動をもらった。次は大人の番だ」という言葉です。

また、校歌は、選手たちが試合後に全力で歌うとともに有名になりました。「可美（うま）しき郷 我が金足」で始まる歌詞は、「この道に われら拓（ひら）かむ」という一節で締めくくられます。可能性を信じ粘り強く取り組んでいけば、必ずや道は拓けていくものと思っています。

次は若者たちからバトンを受けとった大人たちの番です。

■略歴

昭和30年	北海道函館市生まれ
昭和53年	北海道大学法学部卒業
同　　年	国民金融公庫入庫
平成22年	日本政策金融公庫秋田支店　国民生活事業統括
現　　在	公益財団法人教育資金融資保証基金仙台業務センター所長 （同基金は日本政策金融公庫が取り扱っている教育資金貸付の保証機関です）

秋田市観光クチコミ大使 … 秋田市に縁のある経済人や転勤等で過去に秋田市に在住経験のある方々に、身近な人々へのクチコミやインターネットでの情報発信を通じて、秋田市の観光PRにご協力いただくため委嘱している。